

目 次

第一章 志怪の世界

一 志怪について

二 志怪の世界

(一)

鬼

(甲) 鬼について

(乙) 鬼の話

1 死人録

2 妻子を思う鬼

3 腹のへった新死鬼

4 怒った鬼

5 人間に売られた鬼

6 延命してくれた鬼

7 廁の鬼(その一)

8 廁の鬼(その二)

9 宿場の鬼魅(その一)

10 宿場の鬼魅(その二)

(六) 11 無鬼論(その一)

12 無鬼論(その二)

魂

(二) 魂について

(甲) 魂の話

1 反魂

2 魂よばい

3 耳中の魂

4 死を告げに来た魂

5 妻のかんざし

6 棺を開くことを告げに来た魂

7 男を訪ねた女の魂

8 被中の魂

再生

(甲) 再生について

(七)

(甲) 術

(乙) 術の話

1	董永と織女	78
2	王祥と継母	78
3	王延と生魚	79
術	術について	80
術の話	術の話	84
1	鳥に化した王子喬	84
2	徐登と趙昞の方術	84
3	趙侯の術	84
4	左慈の神通力	85
5	葛玄の変化の術	87
6	死んだ人に会わせる術	87
7	黄公の幻術	88
8	印度人の幻術	88
9	印度人の呪術	89
10	桓温と尼僧	89
11	賈雍の神術	90

(八)

(甲) 動物

(乙) 動物の奇異

動物をめぐむる話

1	義犬塚	97
2	白龜の恩返し	98
3	黄雀の恩返し	99
4	鼠の恩返し	100
5	妻になった鳥	100
6	女に化けた豚	101
7	女に化けたわに	101
8	女に化けた鹿	101
9	人に化けた犬	102
10	古狸の怪	103

動物

12	神符の秘法	90
13	朱書の符	91
14	虎に化す術	91
15	鵝籠に入った書生	92

(乙) 再生の話

1	再生した女	43
2	おしろい売りの女	44
3	墓の中で生きていた女	45
4	墓中の宮女	46
5	干宝と再生の話	46
6	枉殺されて再生した女	46
7	再生して結ばれた男女	47
8	七日して生き返った男	48
9	鬼に腕輪を贈った話	48
10	千日酒	49

(四)

(甲) 墓(冢)・祠・廟

(乙) 墓(冢)・祠・廟をめぐむる話

1	三王墓	53
2	韓憑夫婦の墓	57
3	素女祠	59
(甲)	墓(冢)・祠・廟の怪異について	50
(乙)	墓(冢)・祠・廟をめぐむる話	53
(甲)	墓(冢)・祠・廟	50

(三)

(甲) 別世界

(乙) 別世界について

別世界の話

4	竹王三郎祠	60
5	孤石廟	61
6	墓中の美女(その一)	61
7	墓中の美女(その二)	62
8	秦女の金枕	62
9	山中の廟	64

(五)

(甲) 別世界

(乙) 別世界について

別世界の話

1	桃源	69
2	山中の美女 袁相・根碩の話	70
3	山中の美女―劉晨・阮肇の話	71
4	鎬池君	75
6	地下を歩いた人	75

(六)

(甲) 善行

(乙) 善行と奇異

善行の話

1	善行	76
(甲)	善行と奇異	76
(乙)	善行の話	78

(六)

1 離魂記……………陳玄祐……………293

2 板橋三娘子……………孫 頴……………295

3 白猿伝……………(作者不詳)……………299

4 杜子春伝……………鄭還古……………304

5 任氏伝……………沈既濟……………312

6 長恨歌伝……………陳 鴻……………326

7 牡丹灯記……………瞿 佑……………332

8 金鳳釵記……………瞿 佑……………341

9 申陽洞記……………瞿 佑……………349

10 太虚司法伝……………瞿 佑……………356

索引……………364

(三)

1 離魂記……………陳玄祐……………293

2 板橋三娘子……………孫 頴……………295

3 白猿伝……………(作者不詳)……………299

4 杜子春伝……………鄭還古……………304

5 任氏伝……………沈既濟……………312

6 長恨歌伝……………陳 鴻……………326

7 牡丹灯記……………瞿 佑……………332

(六)

1 離魂記……………陳玄祐……………293

2 板橋三娘子……………孫 頴……………295

3 白猿伝……………(作者不詳)……………299

4 杜子春伝……………鄭還古……………304

5 任氏伝……………沈既濟……………312

6 長恨歌伝……………陳 鴻……………326

7 牡丹灯記……………瞿 佑……………332

8 金鳳釵記……………瞿 佑……………341

9 申陽洞記……………瞿 佑……………349

10 太虚司法伝……………瞿 佑……………356

(一)

1 離魂記……………陳玄祐……………293

2 板橋三娘子……………孫 頴……………295

3 白猿伝……………(作者不詳)……………299

4 杜子春伝……………鄭還古……………304

5 任氏伝……………沈既濟……………312

6 長恨歌伝……………陳 鴻……………326

7 牡丹灯記……………瞿 佑……………332

8 金鳳釵記……………瞿 佑……………341

(十)

1 離魂記……………陳玄祐……………293

2 板橋三娘子……………孫 頴……………295

3 白猿伝……………(作者不詳)……………299

4 杜子春伝……………鄭還古……………304

5 任氏伝……………沈既濟……………312

6 長恨歌伝……………陳 鴻……………326

7 牡丹灯記……………瞿 佑……………332

8 金鳳釵記……………瞿 佑……………341

9 申陽洞記……………瞿 佑……………349

10 太虚司法伝……………瞿 佑……………356



記 魂 離

第二章 伝奇の世界

一 伝奇について

志怪に対し、唐代の小説を伝奇ということは前述した通りであり、伝奇は志怪の演進したものと言われている。思うに怪と言ひ、奇と言つても大した変わりはないが、しかし「志」に対し、「伝」というのには、少しちがった意味合いが見られる。それは「志」のしるすことを本来の姿としているのに対し、「伝」にはそれを伝えようとの作者の意図が働き、そこに作為が見られるということである。

そんなわけで伝奇には一篇一篇、題名と作者があり、文章の妙、構想の巧を競ひ、文才を示そうとするところがあつて、その文にしても志怪に比して文学的であり、遙かに長篇なのが常である。

ところで伝奇には志怪的なものが多く見られる。川をさかのぼって行くと二人の美女に出あつて一夜の契りを結んだとか(遊仙窟)、女の魂が肉体を離れて男のところへ行つたとか(離魂記)、猿が美女をさらつて行ってその子が生まれたとか(白猿伝)、狐が美女に化けたとか(任氏伝)、術をつかつて不思議なことをしたとか(板橋三娘子)、死んだ人の魂を方士が招き求めたとか(長恨歌伝)、人が虎に化したとか(入虎伝)、穴から入って行くと別世界に至つたとか(枕中記 南柯太守伝)、また水中の宮殿に至つたとか(柳毅伝)といったことは、みな志怪にも見られることであるが、しかし志怪が怪奇そのものを追い求めているのに対し、伝奇では怪奇が人の喜び好むものであるというところから、借りて現実をつづるのを主とし、しかもその間、意図するものを蔵しているのが大きくちがっている。